

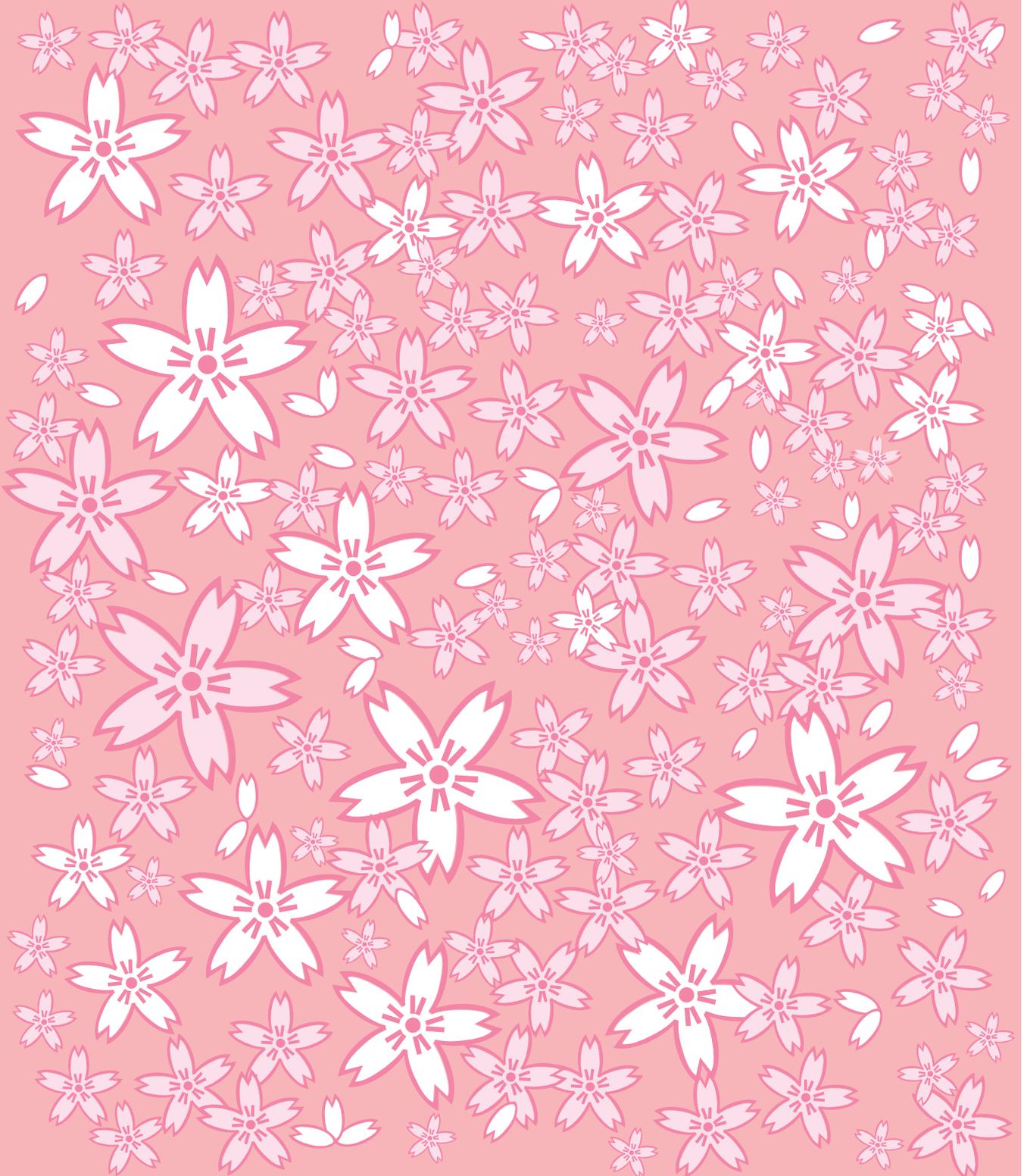
会報

春

No.157

2012.4

社団法人 北海道電業協会



目 次

東日本大震災から1年北海道産業保安監督部 企画調整官 赤 繁 博 規	1
平成24年電気関係賀詞交歓会	2～3
法人職務執行者就任ご挨拶(株)サンテック北海道支社 支社長 滝 澤 英 美	4
.....函館電設業会 会長 平 沼 冠 三	4
技術講習会「電気設備技術者のための現場管理技術」	5
電設業関連四団体懇談会	6
「電気・空衛連絡協」と「北海道設備設計事務所協会」 との意見交換会	7
電気・空衛連絡協議会	8
札幌市都市局との意見交換会	9
ーシリーズー 1/212だより ・緑と清流のまち～置戸町置戸町長 井 上 久 男	10～11
・多くの個性が輝くまち～日高町日高町長 三 輪 茂	12～13
現場からこんにちは	14～15
分離発注訪問記	16
ーシリーズー「私のいちおし」 橋本電気工事(株) 代表取締役 橋 本 耕 二	17
ーシリーズー「ビジネスマンはこれを読め！」 (株)久住書房 社長 久 住 邦 晴	18
「お知らせ」 平成24年度電気工事施工管理技士受験準備講習会 1級学科・1級実地	19
平成24年度登録電気工事基幹技能者特例講習会	20
業界だより、理事会	21
三役会・委員会報告	22～23
事務局日誌	24
編集後記	



東日本大震災から1年

北海道産業保安監督部

企画調整官 赤 繁 博 規

早いもので、あれから一年が経ちました。東北では福島第一原子力発電所周囲は未だに警戒区域が設定され、住民は必要な家財を持ち出したり、自宅の様子を見るための一時帰宅しかできない状況です。また、原子力災害以外の被災地住民も瓦礫処理が一向に進まず不便な仮設住宅で先の見えない不安な生活をされています。そして被災企業も現地での再建が出来るのか、資金不足、人材不足、顧客離反等の悩みを抱えていると聞いております。高齢化、人口減少、産業空洞化といった将来の日本の姿を先取りしているようで、早く元気な東北に戻って欲しいものです。

一年を前にして当部では2月末に震災シミュレーション訓練を実施しました。昨年は震災発生の日前、釧路を震源として札幌から支援に行くストーリーで実施しましたが、今年、東日本大震災を踏まえた部の業務継続計画（BCP：Business Continuity Plan）を策定、これに基づき業務が継続できるか訓練を実施しました。

想定地震は札幌市防災会議の地震被害想定（平成20年9月）にある札幌直下型の月寒断層を想定した地震で、市内の15%の地域で震度6強以上の揺れに見舞われ、冬季平日の場合全壊棟数33,611棟、出火314件、死者8,234人、帰宅困難者83,142人、上水道機能支障67.3%（1時間後断水率）、電力機能支障17.8%（1時間後停電率）、都市ガス機能支障97.0%（1時間後供給停止率）と想定しています。特に冬季の場合、断水よりも停電を非難行動の指標となるとの記載があり、電気の重

要性が指摘されています。

このほかに、部独自として入居建物自体は使用できるが、停電で一般電話、FAX、TV、パソコン等は使用できない。防災用の携帯は何とかつながる。救急車の必要な負傷者が発生したことを想定した半日の訓練ではありましたが、今後検討しなければならない問題点も見いだされました。一番大きな問題は職員が日頃から事故等への対応を求められているため、直ぐに事故情報を集め現場に行くという行動に走りがちな点でした。経済産業省の安否確認メールシステムを活用して本人から自身や家族、家屋等の情報を収集することになっていますが、本人と家族の連絡が取れにくい状況が想定されます。これをしっかりやらないと震災対応業務に集中できないし、その後の事故や判断ミスの原因ともなると考えられます。

また、家族と連絡が取れない場合、どのタイミングで帰宅させるか。本人から連絡がない場合、組織としての対応をどうするのか。といった問題点もあり、今後の検討課題が浮き彫りになりました。

訓練プランを作った私自身も我が家で、日頃から簡単な防災用品はリュックに詰め持ち出す用意はしていましたが、改めて家族で避難場所の確認や災害用伝言ダイヤルの体験利用もしなければと思っています。皆様も、是非職場やご家庭で話し合い、シミュレーションをして見ては如何でしょうか。

平成24年電気関係賀詞交歓会



挨拶 近藤会長

恒例の上記3団体による「平成24年電気関係賀詞交歓会」が、1月13日札幌グランドホテルにおいて、多数のご来賓と3団体の会員合わせて約350名が出席して開催された。

初めに主催3団体を代表して(社)日本電気協会北海道支部の近藤会長が挨拶された。

近藤会長は、昨年3月11日に発生した東日本大震災による原発事故を受け、電気工事業を取り巻く環境が大きく変わったことに触れ「政府はエネルギー基本計画を白紙から見直し、今年の夏には2030年に向けた計画を打ち出す。我々としては、これらの動向を注視し、適切な対応をしていきたい」と述べた。さらに「将来の電気関係業界発展のためには電気技術者の育成が最も重要な課題の一つである。企業の経営資源は「ヒト」「モノ」「カネ」と「情報」と言われていますが、この

日 時 平成24年1月13日(金)11時から
場 所 札幌グランドホテル2階
「グランドホール」

(社)日本電気協会北海道支部
北海道電気工事業工業組合
(社)北海道電業協会

中でも、優秀な人材の確保は、今後の経営の根幹であり続ける。厳しい経営環境を乗り越えるためにも、これまで以上に電気技術者の育成、資質向上が必須条件となる」と力を込めた。

また、明るい話題として、国に提案していた「北海道フード・コンプレックス国際戦略総合特区」の採用が決定し、今後増大する東アジアの食市場を狙う我が国の拠点として政府から認定を受けたこと。さらに、新幹線の札幌延伸決定については「久々に北海道に活気をもたらし盛り上がっていることは明るい話題であるが、総合特区はあくまでも活動の土俵ができただけ。新幹線もインフラ整備が約束されたに過ぎない。重要なのは、いかにその土俵の上でプレーするか、インフラを活用してどのような北海道を作っていくのが求められている」と述べ。最後に「今年も厳しい船



出となるが皆さまと力を合わせて乗り切っていきたい」と挨拶された。

続いて、来賓の経済産業省北海道経済産業局長和田修一様から、ご祝辞を頂戴いたしました。まず、日頃から電力という国民生活や産業に不可欠なエネルギー供給に尽力されていることに対するお礼を述べられてから、最近の経済情勢について触れ、非常に厳しい状況が続いているけれど、中長期的な視野から来るべき春に備えて、必要な事を着実にやっていかなければならないとし「去年の東日本大震災を通じエネルギーを安定供給する重要性があらためて認識された。いち早く電力供給に従事していただくなど、ライフラインを支える皆さんの力がなければ前に進まないの、できるだけの支援に力を注いでいきたい」と述べられ、今後も電気関係3団体の一層のご理解とご協力をお願いされて締めくくった。

この後、北海道電気工事業工業組合の尾池理事



乾杯 尾池理事長

長の乾杯で交歓会が始まり、会場では景気回復や企業業績アップを願い、あちこちで名刺交換や歓談する姿がみられ、和やかな雰囲気での時間の経つのも忘れるほどの賑わいであった。

最後に当協会の吉川会長の締めでお開きとなった。



ご祝辞 経済産業省北海道経済産業局長 和田 修一 様



お開き 吉川会長

就任ご挨拶



株式会社 サンテック
北海道支社長

滝澤 英 美

会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

この度、前北海道支社長中上一民の後任として1月1日付けで就任いたしました滝澤英美でございます。

平素より、当協会及び会員の皆様には、大変お世話になり心より厚く御礼申し上げます。

若輩者ではありますが、会員の皆様にご指導、ご鞭撻を頂きながら業界及び協会の発展に最善を尽くす所存でございますので、宜しくお願い申し上げます。

この機会をお借りしまして弊社のことを紹介させていただきます。

弊社は昭和12年1月に先代の代表取締役社長八幡貞一が広島市にて前身である「満長組」として創業し、昭和23年に旧社名「山陽電気工事株式会社」を設立。

昭和31年には本社を東京都に移転し、平成4年に商号を「株式会社 サンテック」に変更しました。

その間、北海道（札幌営業所として昭和27年に設置）、東北、中部、大阪、広島、九州に支社を配し、広島と千葉に盤製作電機工場を設置。海外にもシンガポールを始めとして東南アジア・中国・台湾など多くの支社及び現地法人を開設をいたしました。

弊社のモットーである「技術で創る、明日（未来）へのかけ橋」のもと「人造り・国造り」と「クリーンな環境造り」に社員一同心掛けてまいりました。

生まれ故郷である北海道を長年離れていた私にとっては、道内の経済が全国と比べ低迷していることが、日経につれ身にしみて感じております。この厳しい環境の中でも、北海道の発展に希望を持ちながら業務に邁進して行く所存でありますので今後ともよろしくお願いいたします。

最後になりますが、当協会の益々のご発展と会員皆様のご繁栄とご健勝をご祈念申し上げ新任の挨拶とさせていただきます。



函館電設業会
会長

平 沼 冠 三

昨年12月に、大鎌会長が急逝され函館電設業会としては真に突然のショックな出来事に残された役員

及び会員は言葉もなく茫然となりました。あれから3ヵ月が経過し、未だに大鎌会長がもう居ないという事が信じきれないでいる自分ではありますが、今年2月の総会において、函館電設業会の会長をお引き受けすることになりました。

当業会は昭和46年5月に設立以来40年以上の歴史を持ち電気設備工事業界の発展と会員企業のレベルの向上、地域社会への貢献等に力を注いで参りました。又、北海道電業協会へも昭和54年に法人会員として入会、最新の情報や技術力向上の資

料などを会員企業に発信して参りました。

現在の我々業界を取り巻く環境は非常に速いスピードで変化し、かつ複雑化しております。国内外の政治、経済の動向が回りまわって地方の経済にプラスにもマイナスにも影響し、電気設備業界に身を置く我々もそれに無縁ではられない時代となりました。

そんな中で、大きな指導力と卓越した見識を持ち、行動力もあつた大鎌会長を失った事は真に残念ではありますが、その意思を受け継ぐべく新会長として全力を尽くす所存でございますので、今後とも先輩諸氏のご指導とご支援を切にお願い申し上げます。

最後になりますが、北海道電業協会の益々の発展と会員皆様のご繁栄を祈念申し上げ新任の挨拶とさせていただきます。

（権電工業(株) 代表取締役社長）

技術講習会「電気設備技術者のための現場管理技術」



平成24年2月16日(木)午後1時30分から、北海道電気会館502会議室において「電気設備技術者のための現場管理技術」の講習会を開催した。受講者は会員企業の工事の実務担当者で22社31名の方々が参加しました。開催にあたり主催者を代表して、当協会の岡竹俊和技術安全委員長から「北海道は公共工事の減少などから全国平均と比べても一段と厳しい状況にあるが、技術力の向上や安全作業の継続など、できることを確実に実行して、この難局を乗り越っていただきたい」と述べ、さらに「近年の建築物はIT化等により高度な機能が要求され、そのうえコストダウン、施工の省力化を実現して発注者のニーズに合った設備を完成させることが大切で、現場の総責任者である現場代理人の管理能力が求められている。本日の講習会で、しっかり学び今後の仕事に役立てていただきたい」と挨拶した。

講師には、北海電気工事(株)電設工事部の今野正章氏が(一社)日本電設工業協会から派遣された。



開講挨拶 岡竹俊和 技術安全委員長

講習会では、(一社)日本電設工業協会が発行されたテキストを使い、現場管理の概要や官公庁への申請手続きの実務などの要点をわかり易く解説された。

今野氏は「現場代理人は、社長の代理人として現場管理を行っていく。つまり代理人の言動がその会社のものとして認識されるので、十分な自覚と責任をもった行動をとる必要がある」と現場代理人の心構えを力説。さらに、「現場の状況は日々変化している。この変化に対応して工事を進めていくためには、現場の状況を的確に把握しなければならない。そのためには、1日1回は、必ず現場の巡視を日課とすることを勧める」とアドバイスされた。

受講者は、現場代理人として欠かせない管理能力に磨きをかけようと、熱心に講師の話に耳を傾けていた。



講師 今野 正章 氏

電設業関連四団体懇談会



平成24年2月20日(月)午後4時から北電北二条クラブにおいて、当協会、北海道電気資材卸業協同組合、電設資材総合メーカー（3社）、(社)日本配電制御システム工業会北海道支部の4団体による懇談会を開催。各団体から17名が出席した。

はじめに、当協会の吉川会長から日頃の皆さんのご協力に対して感謝の意が述べられたあと「厳しい経営環境が継続している中で、電設業関連四団体が一致団結協力して、この難局を乗り越えていくためにも有意義な懇談会にして欲しい」と挨拶があった。

続いて、嘉部支部長から「今年は当業界設立30周年を迎えるとともに、新法人への移行に向けた体制作りを行う。当支部においても本部と一体組織となるため、会員に対する啓発や周知に努め円滑に移行したい」と抱負を述べられ、また「当業界として最大の課題は後継者が育たないことである。将来を見据えた人材育成に取り組みたい」と

挨拶された。

次に、滝川理事長から「北海道の建設業は厳しい状況が継続しているが、地球環境にやさしい省エネ商品、オール電化住宅の増加、さらに太陽光発電、LED照明器具の普及拡大など明るい材料もあるので、皆さんで力を出し合ってこの難局を乗り越えよう」と挨拶された。

引き続き各団体、メーカー各社から業界の現状と今後の見通し・対策などの報告があった。

最後に当協会の小川専務理事から昨年度実施された会員調査の実施結果から、電気設備工事業に係る受注状況・完成工事高の経年別推移について説明があり、それぞれ平成18年度をピークに減少している状況であった。また、平成23年度事業に対する取り組みについて説明した。会議終了後の懇親会では、情報交換の場となり和やかな雰囲気の中で終了した。



吉川会長挨拶



嘉部支部長
日本配電制御システム工業会



滝川理事長
北海道電気資材卸業協同組合

「電気・空衛連絡協」と「北海道設備設計事務所協会」との意見交換会



当協会と（一社）北海道空調衛生工事業協会で構成する「電気・空衛連絡協議会」と「北海道設備設計事務所協会」との意見交換会が3月13日（火）北海道電気設備会館で開催され、3協会から合わせて29名が出席した。

はじめに、吉川会長から業界を取り巻く環境が厳しさを増す中で、東日本大震災と福島原発事故の影響で、さらに厳しさが増してくる状況を強調され「本日は活発な意見交換会にさせていただきたい」と挨拶された。

つづいて、各業界から状況報告があり、当協会からは、電設工事業界をめぐる最近の状況と当協会の事業取り組みについて。会員調査結果の資料から、会員の受注が全国的に大きな落ち込みになっている現状を報告。さらに（一社）日本電設工業協会が昨年10月に策定した「平成23年度会員大会決議事項」について説明。

道空衛協会からは、最近の日空衛の活動状況から、コンプライアンスの確保や公正な事業活動の取り組みについて説明があった。道設備設計事務所協会からは、北海道建築局整備課と設備関係団体による勉強会の開催状況。札幌市都市局幹部との意見交換会の概要について説明された。最後に、道空衛協会の池田会長から「東日本大震災の影響もあり、被災地優先の観点から、公共工事の延期、減少が見込まれる。さらに資材や原油価格の高騰などで厳しい状況が続くが、この難局をみんなで力を合わせて乗り越えよう」と挨拶された。

【議事次第】

1. 各業界の現状について
各業界から説明（各15分程度）
2. 電気・空衛連絡協議会の活動内容
3. 意見交換・質疑応答



吉川会長
（社）北海道電業協会



種市会長
北海道設備設計事務所協会



池田会長
（一社）北海道空調衛生工事業協会

電気・空衛連絡協議会



平成24年3月15日(木)北海道電気会館会議室において、当協会と(一社)北海道空調衛生工事業協会による連絡協議会を開催した。

道空衛からは、池田会長ほか10名、当協会からは吉川会長ほか11名が出席した。

本協議会は、電気・空衛の両協会が連携・協調して事業を推進するため毎年開催しており、両業界の共通課題に取り組み、情報交換及び検討会を重ね、両協会の地位向上、企業経営に大きな役割を果たしている。

今年は、下記の協議事項について意見交換を行った。

【協議事項】

1. 電気・空衛連絡協議会行事予定について
2. 札幌市と電気・空衛連絡協議会との意見交換会について
3. 北海道設備設計事務所協会との協議会開催について

【出席者】

◎ (一社) 北海道空調衛生工事業協会

(一社) 札幌空調衛生工事業協会 (札幌空衛)

会 長	池 田 薫
専務理事	高清水 信彦
(札幌空衛)	
副 会 長	里 中 雅 幸
常任理事	佐 橋 光 好
〃	渡 部 正 博
理 事	太 田 正 則
	斉 藤 一 男



池田会長



吉川会長

〃	広報委員長	福 澤 昇
〃	技術委員長	中 山 明
事務局長		小 林 雅 英
監 事		石 黒 憲 昭
		(11名)

◎(社)北海道電業協会

会 長	吉 川 照 一
副 会 長	中 野 章
〃	山 口 勉
〃	樋 口 雄 一
理 事	加 藤 勝 利
〃	鈴 木 暁 彦
〃	橋 本 耕 二
〃	岡 竹 俊 和
〃	萩 本 哲 夫
経営副委員長	水 口 勲
専務理事	小 川 孝 樹
事務局長	枝 並 秀 喜
	(12名)

札幌市都市局との意見交換会



当協会と（一社）北海道空調衛生工事業協会との共催で3月15日(木)北海道電気会館において、札幌市都市局幹部の方々のご出席をいただき、意見交換会を開催した。

当協会と道空衛協会からそれぞれ会長、副会長、理事ら合わせて23名が参加した。札幌市都市局からは芝富士夫設備担当部長、日當雅博電気設備課長、佐藤之則機械設備課長が出席された。



札幌市都市局幹部の方々

札幌市からの情報提供として芝部長から、円山動物園のアジア館の新設さらに、全国初となる通年型カーリング場の新設や北白石小中学校の改築工事などの大型工事について説明があった。

＜意見交換会の内容は次のとおり＞

1. 札幌市からの情報提供

- ①札幌市の事業動向と今後の見通し
- ②入札契約制度等について
- ③その他

2. 要望事項

- ①分離発注の継続について
- ②札幌市との防災協定締結に向けたお願い
- ③地域社会貢献活動の評価について
- ④最低制限価格の引き上げについて
- ⑤大型工事の分割発注について
- ⑥工事量確保のお願い



緑と清流のまち～置戸町

置戸町長 井上久男



置戸町は、北海道の東北部、オホーツク総合振興局管内の西南端にあって、東西40.3km、南北29.6kmで、総面積527.54km²を有し、その8割以上が森林で占められています。町の中心部には常呂川が流れ、最上流部には鹿ノ子ダムがあります。気候は、夏冬・昼夜の寒暖の差が大きい北見地方における代表的な内陸性の気候です。特に、冬期間はオホーツク海に接岸する流氷の影響等を受け、著しく気温が低下することがあります。明治36年、最初の入植者による開拓の跡がおろされてから、明治44年の鉄道開通とともに豊富な森林資源が注目を浴び「木材の町」として発展してきました。人口の増加に伴って、大正4年に野付牛村（現北見市）より置戸村として分村独立し、昭和25年には町制を施行し「置戸町」として現在にいたっています。

【人間ばん馬】

木材の町として発展してきた置戸町の歴史、特に当時の作業風景を祭りを通して今に伝えようと「人間ばん馬」は生まれました。その名のとおり、人間が馬に代わって丸太を積んだバチゾリを曳っ張りあいます。大会レースは、5人曳き・7人曳きの2クラスで行われ、曳っ張る重量は予選300kg、決勝500kg。途中2ヶ所に障害を設けた全長80mのコースで競われます。優勝賞金50万円をかけた力自慢による熱き戦いは、毎年6月下旬に開催される「おけと夏まり」のメインイベントとして全国的にも有名になりました。



人間ばん馬

【オケクラフト】

オケクラフトは、地場資源の付加価値を高める生産教育の一環から誕生しました。昭和58年に「白い器オケクラフト」として東京の百貨店で脚光を浴びて以来、町内では学校給食器としても利用されてきました。北海道のエゾマツ、トドマツの白い木肌と美しい木目を生かした器をはじめ、カバヤセンなどの柔らかな質感を生かしたカトラリーなど、作品はバラエティに富んでいます。匠の技を持つ作り手たちが一つひとつ大切に仕上げたオケクラフトは、耐水性や耐久性にも優れ、普段の暮らしに優しさと豊かさを演出してくれます。



オケクラフト

【おけとパークゴルフ場】

全17コース153ホールの日本最大規模を誇る日本パークゴルフ協会公認のパークゴルフ場です。プレイヤーの多様な志向に応えるため、難易度別に4段階のエリアを設定。初心者から競技志向の方まで幅広く楽しみ、豊かな自然を活かした魅力の人気スポットです。毎年10月には、内閣総理大臣賞争奪「おけとウルトラパークゴルフ大会」が開催され、全道各地から多くの愛好者が訪れます。

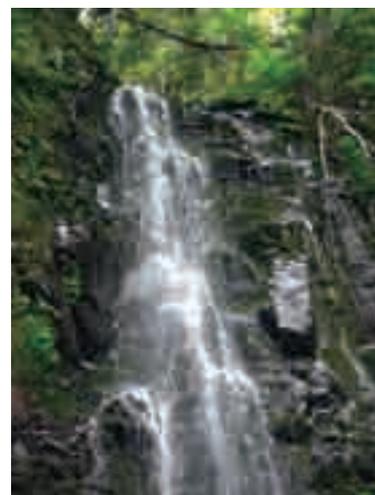


おけとパークゴルフ場

【鹿の子沢】

往復1時間30分ほどのハイキングコースです。直下13mの断崖から流れ落ち、角度や季節によってその表情を変える「虹の滝」「飛竜の滝」「糸ひき滝」推定樹齢200年を超え全国の巨木100選にも数えられる「三本桂」や「忍び岩」「雲突岩」「屏風岩」など、自然が織り成す神秘的な景色が広がっています。

散策の途中では、野鳥や高山植物も数多く観察することができ、一年を通じて幅広い年齢層の方に親しまれています。



鹿の子沢（虹の滝）

【おけと湖】

おけと湖は、鹿ノ子ダムが常呂川の流れをせき止めることで出現した周囲13.4kmの人造湖です。湖周辺は、エゾマツやトドマツなどの原生林が囲み、クマガエラやフクロウなど野鳥の宝庫となっており自然湖の様相を見せています。また、おけと湖では年間を通じてフィッシングを楽しむことができ、特に湖面が完全に結氷する冬期間は多くのワカサギ釣り客で賑わいます。



おけと湖



多くの個性が輝くまち～日高町

日高町長 三 輪 茂



日高町は、平成18年に旧日高町と旧門別町とが合併して現在の日高町になりました。ふたつの地域は、平取町をはさみ、沙流川でつながっています。日高山脈のふもとに広がる森と清流の空間「日高地域」は、地区の約95%を森林が占めており、道央と道東を結ぶ交通の要衝となっています。

市街地には「道の駅」があり、オートキャンプ場やスキー場といったアウトドア施設が充実しています。日高町の南の玄関口となる「門別地域」は、太平洋に面しており、米どころ、馬産地として、また沙流川を遡上するシシャモでも知られています。

総面積992.67km²のエリアに「山と海」の地域特性をもつ日高町は、多くの個性が輝いています。

【日高町の観光】

～日高山脈から太平洋まで、美しく雄大な自然をリアル体験～

日高山脈に抱かれた清流と緑の里に遊び、仔馬が跳ねる牧場の風景に憩い、太平洋に思いを馳せる。優れた地域資源を有する日高町では、四季折々に多彩な楽しみが広がっています。登山者に人気の日高山脈、渓流釣りやラフティングなどを堪能できる沙流川、森林浴に最適な緑の森、オートキャンプ場とアウトドアが充実。日高管内唯一の本格的なスキー場「日高国際スキー場」もあ

り、日高地区にはシーズンを通して多くの人々が訪れています。



沙流川キャンプ場

一方、数多くの名馬を生み出している門別地区では、牧場めぐりが人気。目の前に広がる太平洋をフィールドとした海釣りも満喫できます。

春の「神楽丘公園」、夏には高山植物や海岸草原、秋の日勝峠や里平山の紅葉と、山と海と大地が織りなす美しい季節の彩りに包まれて、雄大な自然を体感してください。



シシャモ漁



ラフティング



日高山脈 チロロ岳



ペンケヌーシー岳 登山



放牧風景

【ホッカイドウ競馬「門別競馬場」 ～サラブレッドの故郷で

迫力のレースを堪能～

驚異の走りで、史上初の無敗のクラシック3冠達成、更にGI7勝という圧倒的な強さでファンを魅了し「皇帝」と呼ばれたシンボリルドルフを筆頭に、数多くの名馬が日高町から産出されました。「強い馬を作る」という強く熱い思いを胸に、生産者は今もチャレンジを繰り返し、大いなるサラブレッドのロマンを広げています。牧歌的風景が広がる牧場。のどかに見えるこの牧場の各所に「誰よりも早くゴールを駆け抜けたい」という、サラブレッドと生産者たちの無垢の願いが息づいています。ロマンと生産者の願いを乗せ、地響きを轟かせながら駿馬たちが駆けるレースの迫力を、体で感じることができるのが、ホッカイドウ競馬「門別競馬場」です。

右回りダートコース1周1,600m、直線330mのコースを持つ場内にある観客席「ポラリス☆ドーム」はコース側が全面ガラス貼りで、寒い時期でも快適に観戦が可能。収容人員は約800名、外部のスタンド席を合わせると約1,300名を収容することができます。ほかの競馬場に比べると小ぶりに感じられるかもしれませんが、内部へ入るとコンクリート打ち放しのモダンな壁や、光を通す素材を使ったシェル型の天井がスタイリッシュ。大開口のガラス壁とあいまって、室内は明るく開放的な雰囲気です。ベテランの競馬マニアからファンのグループ、カップルまで、さまざまな観客がのんびりとレースを見守る風景は、門別競馬場独特のものかもしれません。

【日高高等学校】

～日高町の豊かな自然環境と地域資源を活用した「産業学習推進制度」～

日高高校は、昭和24年に開校し、今年で63年目を迎える町立の夜間定時制高等学校で、一般の夜

間定時制高校とは少し違うユニークな制度を導入しています。教育課程自体は一般の普通科定時制高校と同じですが、本校の大半の生徒は昼間に日高町教育委員会の主催する社会教育事業「産業学習推進制度」を受講しています。

「産業学習推進制度」とは、日高町の豊かな自然環境と地域資源を活用し、心身共に健全な青少年の育成を図ることを目的とした総合学習システムです。例えばさまざまなスポーツ（冬期間はスキー学習）をとおして資格取得を目指すことや、農作業やボランティアで年間をとおしてさまざまな社会活動を学びます。



産業学習推進制度 子供たち

また、平成20年度からは、スキーアスリート・キャリアデザイン・アドバンススタディの3コース制となり、自分の将来の目的に見合ったカリキュラムを受講することができるようになりました。この「産業学習推進制度」の教育活動を学校設定の教科・科目の単位として認定し、定時制ながら3年間で卒業できる3修制を導入しています。また、3食付きの学生寮（個室制）を完備し、全国各地から親元を離れて通う生徒も積極的に受け入れています。生徒は札幌圏を中心とする道内をはじめ全国各地から集まり、日高という地域の特徴を生かした学習活動をとおして豊かな人間性や社会性を育み、自分たちの個性やその良さ、可能性を発見しています。



スキー場とマスコットキャラクター

現場からこんにちは



工事名称：教育文化会館 大ホール舞台照明設備
改修工事

工事場所：札幌市中央区北1条西13丁目7

工期：平成23年6月13日～平成24年3月23日

発注者：札幌市長 上田 文雄

施工業者：協信電気工業株式会社

【工事概要】

- ・電灯設備
- ・舞台照明設備（調光装置）
- ・舞台照明装置（ボーダーケーブル）
- ・トークバック設備
- ・デジタルワイヤレスインカム設備
- ・吊物機構操作制御設備

今回、教育文化会館大ホール舞台照明設備改修工事の現場に伺い、協信電気工業株式会社の監理技術者の本間豊毅さんと現場代理人の三木賢二さ



んに取材をさせて頂きました。

札幌市教育文化会館は札幌市内における芸術文化、教育活動を行う上で中心的な役割を担うため1977年に建設され、音響家が選ぶ優良ホール100選にも選ばれている施設です。

今回改修中の大ホールは演劇、日本舞踊、バレエ、オペラ、コンサート、ピアノ発表会などに利

用できる、プロセニウム方式（プロセニウムアーチの略：劇場と客席を区切る額縁状の形状で、固定した演劇区間を構成する方式）の多目的ホールです。1階484席、2階616席と1000席以上の客席を有し、オーケストラピット、大迫り、小迫りをはじめ、残響可変装置、仮設能舞台も用意された北海道有数の劇場施設です。

この度の改修は、各設備の経年劣化により老朽化した機器の更新が主な内容になります。

今回の改修で、スタッフ間の連絡用として使われてきた既存の有線インカムに新たにデジタルワイヤレスインカム設備を追加する事でスタッフ間の連絡が明瞭になり、さらにトークバック設備の設置により、インカムを装着しないスタッフへの連絡もスムーズになりました。

また、調光室に設置した照明操作卓の高機能化とDMX方式（Digital Multiplex方式の略：照明コントローラと照明機器間のデジタルデータ通信伝送プロトコル）の調光制御を採用することにより、パッチパネルで場内のネットワークを集約することで、ホール内各所に新設したDMXコネクタに個別照明操作卓が接続可能となったため、ホールの使用状況に合わせたより一層効果的できめ細やかな演出を可能とする調光制御が出来るようになりました。

今回の施工で特に注意したことは、舞台上部（すのこ）での作業時において、資材及び工具等

の落下が重大事故に直結することが予見された為、必要最低限の物しか持ち込まない事と、作業開始時及び終了時に材料と工具の搬出入チェックリストを使用し、すのこ上に決して忘れ物をしないよう周知徹底を厳に行いました。

現場を訪問させて頂いた時点で工事はほぼ完成しており、3月初旬からの運用開始を控え、お二人とも気を引き締めておりました。

最後にお二人より『私たちが施工致しました舞台照明設備を体感して頂く為に、教育文化会館大ホールで行われるイベントに足を運んでください！』というピーアールも頂き今回の現場を後にいたしました。

取材 広報委員 大塚 雅史
坂本 桂一



協信電気工業(株)
監理技術者 本間豊毅さん(左)
現場代理人 三木賢二さん(右)



舞台照明設備 (調光装置)

～シリーズ～ 「私のいちおし」

橋本電気工事(株)

代表取締役 橋本 耕 二

「私のいちおし」の最初の原稿を書かせていただき大変恐縮しております。

何処がいいか考えましたが庶民的な“蕎麦屋”にすることにしました。お蕎麦屋さんには数多くありまして、そば通を自認する方が多いので、おそらくこれを読まれた方は、そこのそばより俺が通っている蕎麦屋のほうが、もっとうまいという人が出てきて面白いかなと思ったからであります。

その蕎麦屋は「一休」さんであります。ご主人の細野さんと奥様二人で一日80食の手打ちのそばをお客様に提供しております。

手打ちで生粉（つなぎなし100%そば粉）打ちですから、毎朝御主人が打てるそばの量は限定されてしまいます。

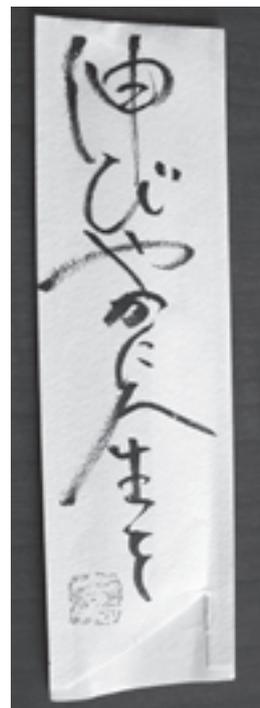
メニューはいろいろありますが、いちおしが“鴨せいろ”であります。そばに腰があって、そばの香りがいたします。ある友人に言わせればそばの“かど”が舌先に感じると申します。そばきりの腕なのでしょうが？また、ご主人がお酒好きでいろいろな銘酒を置いています。お客様にそば酒をどうぞと勧めておまして、そばのあてには大変おいしい“蕎麦屋の卵焼き”と“蕎麦屋のてんぷら”がとてもお似合いであります。



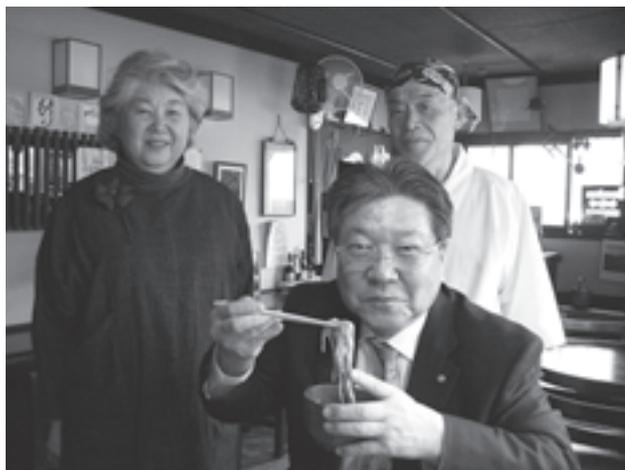
歴史を感じる店構え

もう一つのお楽しみは、奥様が割りばしの袋に手書きの短い言葉を書いて出してくれます。たとえば“喜びを創り出す”とか“生かされて生きる”とか“淡く輝く”とかその時々のお雰囲気を出してくれる一言であります。そばを待つ間、その割りばしの袋の文字を楽しんでいけば、すぐにそばは出てきます。

尚、何せ80食なのでひどい時には午後3時ころには暖簾を下ろします。行かれる方は早めの時間をお勧めいたします。橋本から聞いたといっても少しも安くはなりません、味とサービスは満点ですので、どうぞお試しください。



奥様手作りの割りばし袋



いちおしの「鴨せいろ」に思わずニコリ

○心を打つ手打ち蕎麦「一休」

住 所 札幌市東区北21条東17丁目3-31

電 話 011-784-1919

営業時間 午前11時～なくなりしだい閉店

定休日 月曜日と金曜日

次回の「私のいちおし」は

(株)ドウデン代表取締役社長

小笠原 憲生さん



ビジネスマンは これを読め！



(株)久住書房 社長 久住邦晴

「なぜだ?!売れない文庫本」をはじめ、全国の書店に波及した「本屋のオヤジのおせっかい、中学生はこれを読め！」など独創的な企画で注目された、くすみ書房社長の久住邦晴氏（北海道書店商業組合理事長）おすすめの一冊をご紹介します。

「計画と無計画のあいだ」



「自由が丘のほがらかな出版社」の話

著者：三島邦弘
出版社：河出書房新社
定価：1,500円+税

この本の著者、三島邦弘さんは31歳で出版社を興します。思いつきに近いかなり無謀で、まさに無計画な作り方をしますが、それはともかく、彼は普通の流通ルートではなく直販ルートを選択します。これこそ無謀なこと、というのも直販で成功している出版社は数社しかありません。東版、日版という全国の書店に流通ルートを持っている取次ぎを通さないで、全国の書店を一軒ずつ営業し、取引契約を交わし、配送、集金まで自社で行うわけですから大変です。(もちろん利点もあります)

なぜ彼が直販にこだわったのか。彼は言います。著者と編集者が熱い想いで作った本が読者の元へ届くまでの間に、その熱がこぼれ落ちてしまう。ほととぽとと音をたてて。なぜだろうと考えた時、思い当たることがありました。

今、出版業界は長びく売り上げ不振で苦しんでいます。取次ぎも書店も効率性の追求や経費削減に躍起になり、短期的売り上げを追い求め、返本率の減少を最優先に考えています。そのせいで一番大切なものを失っているのではないかと。

最優先すべきは、「どれだけ面白いか」で「どれだけ熱くなって」「どれだけ夢中になれるか」そういうことだろうと彼は言います。

更に、会社を回すために、「売る」ことが目的化してしまっはものづくりの原点から離れてしまう。ものづくりの原点はあくまでも「喜び」を交換することにあるはずだ、と。

「どうしたら売れるか」ではなく「どうしたら喜んでもらえるか」なんだと。

この本には我々が忘れてしまった商いの原点があります。少し青くさいことを、恥ずかしそうに、一生懸命、しかも気負うことなく伝える三島邦弘さんとミシマ社には今後も注目していきたいと思います。

ちなみにミシマ社は創業5年、出版点数30数冊の小さな会社ですが無借金（すごい！）で熱い会社を継続中です。HPもおもしろいですよ。

お 知 ら せ

○平成24年度電気工事施工管理技士受験準備講習会

1 級学科

【申込受付期間】

平成24年 2 月24日(金)から 4 月13日(金)まで (定員になり次第締め切り)

【申込方法】

- ・ 所定の申込用紙により (一社) 日本電設工業協会北海道支部宛にFAX
- ・ 申込用紙は、(社)北海道電業協会でも取り扱う。

【開催日】

平成24年 4 月24日(火)～ 4 月25日(水) 2 日間

【開催場所】

北海道開発協会会議室

札幌市北区北11条西 2 丁目セントラル札幌北ビル 6 F 電話011-709-5211

【検定試験日】

平成24年 6 月10日(日)

1 級実地

【申込受付期間】

平成24年 7 月20日(金)から開催日当日まで (定員になり次第締め切り)

【申込方法】

- ・ 所定の申込用紙により (一社) 日本電設工業協会北海道支部宛にFAX
- ・ 申込用紙は、(社)北海道電業協会でも取り扱う。

【開催日】

平成24年 9 月 3 日(月) 1 日間

【開催場所】

北海道開発協会会議室

札幌市北区北11条西 2 丁目セントラル札幌北ビル 6 F 電話011-709-5211

【検定試験日】

平成24年10月21日(日)

○平成24年度登録電気工事基幹技能者特例講習会

【受付期間】

平成24年 5月 1日(火)から 5月31日(木)

【開催日】

平成24年 8月24日(金)

【開催場所】

北海道電気会館

(札幌市中央区大通東3丁目)

【開催概要】

この講習会は、平成19年度以前に認定した電気工事統括技士及び電気工事基幹技能者の資格を取得した人が、平成21年度より実施されている経営事項審査（経審）で加点評価されるための特例講習会です。

この特例講習会は平成20年度から平成24年度までの5年間に実施します。

【受講資格】

平成19年度以前に電気工事基幹技能者（電気工事統括技士を含む）の資格を取得した者であり、次の条件を全て満たす者とする。

1. 基幹技能者資格を取得後、1年以上基幹技能者として電気工事の現場施工に従事した経験があつて、これについて事業主等よりの証明が得られること。
2. 電気工事の現場施工に従事して、10年以上の実務経験があり、3年以上の職長経験を有していることを証明できる者。

①実務経験は事業主による証明とする。

②職長経験は事業主による証明と、労働安全衛生法第60条による職長教育終了証とする。

【受講料】

8,000円

受講料には、受講費、教材費、その他関係諸経費が含まれる。

【申込方法】

所定の申込用紙により（一社）日本電設工業協会北海道支部に提出。

申込用紙は、（一社）日本電設工業協会のホームページからダウンロード願います。

【特例講習会受講者の認定】

特例講習会を受講して登録基幹技能者として認定された者には、登録電気工事基幹技能者講習終了証が付与され、（一社）日本電設工業協会に登録して公表する。

業界だより

○法人職務執行者等の変更

平成24年3月1日付

平成24年1月1日付	・函館電設業会	
・(株)サンテック北海道支社	(新) 会長	平沼 冠三
(新) 支社長	(旧) 〃	大鎌 哲雄
(旧) 〃	〇退 会	

平成24年1月31日付

平成24年3月31日付

・末廣屋電機(株)	・(株)弘電社札幌営業所
(新) 代表取締役	猪股 浩徳
(旧) 〃	阿部 建二

理事会・委員会報告

理 事 会

◇平成24年1月25日(水) 12:00~13:30

第6回議題

【協議事項】

1. 平成24年度下期役員会等の日程について
2. 新法人移行に向けた新定款等の作成方針について
3. 平成23年度電設業関連四団体懇談会の開催について
4. 平成24年の電気・空衛連絡協議会の活動について

【報告事項】

1. 会員代表者等の変更について
2. 講演会「LED照明器具に関する課題と施工標準化の検討」の開催結果
3. 本部・支部事務連絡会議の開催について
4. 平成23年度技術講習会の開催について
5. 札商平成24年会員表彰式、特別講演会・新春交歓会について
6. 平成23年1月~3月行事予定について
7. その他意見交換

◇平成24年3月29日(木) 12:00~13:30

第7回議題

【協議事項】

1. 電業協会功績表彰者について
2. 会員の退会について
3. 平成23年度第2回評議会の開催について
4. 第46回・第56回通常総会に向けたスケジュールについて
5. 電業協会第46回通常総会付議事項について
6. 電設協道支部第56回通常総会付議事項について

【報告事項】

1. 本部第242回政策委員会の概要報告
2. 本部・支部事務連絡会議の概要報告
3. 平成23年度電設業関連四団体懇談会の概要報告
4. 平成24年度電気・空衛連絡協議会の開催概要について
5. 設備設計事務所協会と電気・空衛連絡協議会との意見交換会概要報告について
6. 札幌市都市局と電気・空衛連絡協議会との意見交換会概要報告について
7. 平成23年度技術講習会の開催結果について
8. 平成24年度技術・安全衛生基礎教育講習会の開催について
9. 会員代表者の変更について
10. 平成24年4月~5月の行事予定について
11. その他意見交換

|| 三 役 会

◇平成24年 1月16日(月) 12:00~13:30

第10回議題

1. 平成24年度下期役員会等の日程
2. 新法人移行に向けた新定款等の作成方針
3. 平成23年度電設業関連四団体懇談会の開催
4. 本部・支部事務連絡会議の開催
5. 講演会「LED照明器具に関する課題と施工標準化の検討」の開催結果
6. 平成23年度技術講習会の開催
7. 会員代表者等の変更
8. 平成23年度北海道赤レンガ建築表彰式
9. 北海道設備設計事務所協会平成24年新年交礼会
10. 札商平成24年会員表彰式、特別講演会・新春交歓会
11. 平成24年 1月~2月行事予定
12. その他意見交換

◇平成24年 2月20日(月) 12:00~13:30

第11回議題

1. 電設業関連4団体との懇談会
2. 電気・空衛連絡協議会及び同幹事会の開催
3. 道設備設計事務所協会と電気・空衛連絡協議会との意見交換会の開催
4. 札幌市都市局と電気・空衛連絡協議会との意見交換会の開催
5. 本部・支部事務連絡会議の概要
6. 平成24年電設協定時総会改選期の「理事、監事及び諮問委員の定数」
7. 平成23年度技術講習会の開催結果
8. 会社代表者の変更
9. 平成24年電気記念日表彰式典の案内
10. 道空衛通常総会・札空衛定時総会後の合同懇親会の案内
11. 札幌弱電設備業協同組合通常総会後の意見交換会の案内
12. 北海道建築士事務所協会通常総会意見交換会の案内

13. 北海道建築士会通常総会懇親会の案内
14. 平成23年 2月~3月行事予定
15. その他意見交換

◇平成24年 3月12日(月) 12:00~13:30

第12回議題

1. 今後総会までの協会業務スケジュール
2. 通常総会(第46回、56回)・懇親会スケジュール
3. 電業協会功績表彰者の推薦
4. 新公益法人移行に係る通常総会議案(案)
5. 電気・空衛連絡協議会・幹事会の開催
6. 道設備設計事務所協会と電気・空衛連絡協議会との意見交換会の開催
7. 札幌市都市局と電気・空衛連絡協議会との意見交換会の開催
8. 平成23年度第2回評議会の開催について
9. 平成24年度技術・安全衛生基礎教育講習会の開催
10. 平成23年度電設業関連四団体懇談会の開催結果
11. 平成23年度技術講習会の開催結果
12. 会員代表者の変更
13. 平成24年 3月~4月行事予定について
14. その他意見交換

総務委員会

◇平成24年3月9日(金) 12:00~13:30

第5回議題

1. 通常総会・懇親会スケジュール(案)
2. 平成23年度事業実施状況及び平成24年度事業計画
3. 電業協会功績表彰者の選考及び推薦
4. 新公益法人移行に係る通常総会議案(案)
5. 電気・空衛連絡協議会の開催
6. 道設備設計事務所協会と電気・空衛連絡協議会との意見交換会の開催
7. 札幌市都市局と電気・空衛連絡協議会との意見交換会の開催
8. 電設業関連4団体との懇談会の概要報告
9. 平成23年度技術講習会の開催結果
10. 会員代表者の変更
11. その他意見交換

経営委員会

◇平成24年3月21日(水) 12:00~13:30

第5回議題(議長:水口副委員長)

1. 第4回議事録(案)の承認
2. 電設協第242回政策委員会の開催概要
3. 平成23年度経営委員会事業活動状況
4. 平成24年度経営委員会事業計画(案)
5. 本部・支部事務連絡会議開催概要
6. 札幌市都市局と電気・空衛連絡協議会との意見交換会
7. その他意見交換

広報委員会

◇平成24年3月22日(木) 15:00~16:30

第4回議題

1. 平成23年度事業実施状況
2. 平成24年度事業実施計画(案)
3. 会報「夏号」編集方針
4. 会報「春号」校正

5. その他意見交換

技術安全委員会

◇平成24年3月8日(木) 12:00~13:30

第4回議題

1. 実施報告
 - ・技術講習会の実施
(電気設備技術者のための現場管理技術)
2. 平成23年度技術安全委員会事業報告
3. 平成24年度技術安全委員会事業計画
4. 講習会のお知らせ
 - ・平成24年度電気工事施工管理技士受験準備講習会 1級学科・1級実地
 - ・平成24年度技術・安全衛生基礎教育講習会
 - ・平成24年度登録電気工事基幹技能者特例講習会
 - ・平成24年度登録電気工事基幹技能者認定講習会
5. 本部・支部事務連絡会議 概要
6. 総会までのスケジュール
7. その他意見交換

厚生委員会

◇平成24年3月21日(水) 16:00~17:00

第2回議題

1. 平成23年度各部会行事实施報告
2. 平成24年度厚生委員会事業計画(案)
3. 平成23年度決算及び24年度予算(案)
4. その他意見交換

事務局日誌

- 1月6日(金)・官公庁新年挨拶
12日(木)・本部電設協会賀詞交歓会
吉川支部長
13日(金)・電気関係三団体賀詞交歓会
(札幌グランドホテル) 吉川会長ほか
16日(月)・第10回三役会議
17日(火)・北海道設備設計事務所協会
新年交歓会
(京王プラザホテル) 山口副会長
19日(木)・講演会「LED照明器具に関する課題
と施工標準化の検討」
(北海電気工事(株) 8階大講堂)
24日(火)・本部241回政策委員会
山口副会長
25日(水)・第6回理事会・常議員会
・札幌商工会議所新春交歓会
(札幌パークホテル) 小川専務理事
31日(火)・本部常任理事会
(東京) 吉川支部長他
- 2月1日(水)・平成23年度北海道赤レンガ建築賞表
彰式
(ポールスター札幌) 小川専務理事
3日(金)・本部・支部事務連絡会議
(東京) 小川専務理事
16日(木)・技術講習会(北海道電気会館)
「電気設備技術者のための
現場管理技術」
20日(月)・第11回三役会議
・電設業関連4団体懇談会
(ほくでん北二条クラブ)
22日(水)・北海道空調衛生工事業協会通常総会
(京王プラザホテル) 吉川会長
- 3月6日(火)・札幌弱電設備業協同組合総会
(ライフオート札幌) 山口副会長
・ゴルフ部会
8日(木)・第4回技術安全委員会
9日(金)・第4回総務委員会
・本部政策委員会
- (東京) 山口副会長
12日(月)・第12回三役会議
13日(火)・電気空衛幹事会
・北海道設備設計事務所協会と電気・
空衛協会との意見交換会
(北海道設備会館)
15日(木)・札幌市と電気空衛協議会との意見交
換会
・電気空衛連絡協議会
(北海道電気会館)
16日(金)・本部運営委員会
21日(水)・第6回経営委員会
・第2回厚生委員会
22日(木)・第4回広報委員会
23日(金)・本部理事会
(東京) 吉川支部長
・電気記念日祝賀会
(札幌グランドホテル)
29日(木)・第6回理事会
・第2回評議会

編集後記

平成24年春号を迎えました。今回は北海道産業保安監督部企画調整官 赤繁博規様に「東日本大震災から1年」と題した巻頭言の中で、訓練、災害時対応方等課題についてご示唆を頂きました。早いもので、未曾有の大災害、東日本大震災から1年を経過し、まだまだその復旧が細部にまで行き渡っていない状況にあります。一刻も早い復興を願うばかりです。

私は震災当日、東京上野にて会議をしており、宿を鶯谷に予約していたため、何とか布団に潜り込むことができました。それでも小一時間歩いて宿に向かう道のりは“帰宅難民”の大集団であふれ、コンビニで食料、飲み物の確保もままならない状況でした。翌日、「京浜東北線が7時半頃から運転再開」とのTV放送により鶯谷駅に向かいましたが、運行開始が1時間半遅れとなりました。浜松町にてモノレールに乗り換えましたが、両線とも超ラッシュアワーの状態です。羽田空港に到着した時には、予約便は数分前に離陸済みでした。搭乗便を変更し、結局5時間「空港の人」となりましたが、それでも怪我もせず、無事に帰札できたことなど、とてつもなく恵まれた状況でした。

危機管理とは何でしょうか？想定外のことも“想定”して対処することは私にはできませんが、“然るべき想定範囲”に対しても疎かであった！と痛感すること頻りです。

“災害は忘れた頃にやってくる”との格言。この大災害の教訓を活かすためにも、災害の来る以前に日頃より“できる限りの備え”を行ってまいりたいと思います。“備えあれば憂いなし”です。

広報副委員長 小笠原 憲生



発行 平成24年4月
社団法人 北海道電業協会
札幌市中央区南1条東1丁目3番地
パークイースト札幌6階
TEL (011)271-2932
FAX (011)271-2952
E-Mail:dodenkyo@estate.ocn.ne.jp